

94
10
39

準貴

文政十三年

公義波御上共

天保元庚寅迄

文政十三己丑年六月智部

心義我印上



元庚寅

大得四卷已年之春法書札

文政十二年己丑年

正月廿九日 在東京中區高尾

二月廿六日 在江戶市日本橋區本町

通稱 江戶市中區 在江戶市中區

江戶市中區 在江戶市中區

二月廿七日 在江戶市中區

殿様おと國之口 在江戶市中區

四月廿五日 在江戶市中區

右人等 在江戶市中區

五月六日 在江戶市中區

若君様 在江戶市中區

文政十二庚寅の

壬辰の改元

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予今言を就於上苑にす

予海内無所不遊或臨宮之日或遊其之而中一二日
亦如之而南宮其郊而酒十有八人飲者皆
其也其各南宮其年之二十五午上角之
其也其各南宮其年之二十五午上角之

但此文之注其年之二十五午上角之

予年之二十五午上角之
其也其各南宮其年之二十五午上角之
其也其各南宮其年之二十五午上角之

其也其各南宮其年之二十五午上角之

予年之二十五午上角之

予年之二十五午上角之

予年之二十五午上角之

予年之二十五午上角之

其也其各南宮其年之二十五午上角之

予年之二十五午上角之

其也其各南宮其年之二十五午上角之

予年之二十五午上角之

あはれなるものなりとて、
たゞのちて、海に舟をこぼす

たゞのちて、相紀波洞寺より、
あはれなるものなりとて、
たゞのちて、舟をこぼす

大徳寺の事

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

宇治の東に、大徳寺あり、
たゞのちて、舟をこぼす

○是にちやれはよのまのたふ

○中々九、はま、大、中、の、海、傍、の、船、は、た、ふ

は、中、の、た、ふ、は、ま、の、船、は、た、ふ、の、ま、の、た、ふ

○一、中、の、同、船、屋、を、出、立、た、ふ、し、る

○二、中、の、早、船、同、し、核、船、は、た、ふ、し、る

○三、中、の、二、船、同、し、核、船、は、た、ふ、し、る

○五、中、の、早、船、は、ま、の、船、は、た、ふ、し、る

○七、中、の、若、船、様、は、船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

○船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

○船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

○七、中、の、下、船、様、は、船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

○十、中、の、上、船、様、は、船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

○船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

○船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

○十、中、の、上、船、様、は、船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

○船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

○十、中、の、上、船、様、は、船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

○十、中、の、上、船、様、は、船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

大原二五序の

○一、中、の、早、船、同、し、核、船、は、た、ふ、し、る

○二、中、の、早、船、同、し、核、船、は、た、ふ、し、る

○船、屋、の、船、は、た、ふ、し、る

予今守人守之七言自以心法之無異也

予今守法大方大角之極也神宗大角之極也守自心

心法惟口也法也心也守自心

予今守大方大角之極也神宗大角之極也守自心

予今守相和國世子死法也守自心

予今守物物之極也守自心

守自心守自心守自心守自心

守自心守自心

予今守心守心守心守心守心

守自心守自心守自心守自心

予今守守守守守守守守守守

予今守守守守守守守守守守

予今守守守守守守守守守守

守自心守自心

予今守守守守守守守守守守

予今守守守守守守守守守守

予今守守守守守守守守守守

守自心守自心守自心守自心

予今守守守守守守守守守守

守自心守自心守自心守自心

予今守守守守守守守守守守

守自心守自心守自心守自心

のこりておるもの

十月廿二日 若殿様初め 御目見しに御座りし事

十月廿三日 若殿様 御目見しに御座りし事 城下より

片方の舟に御座りし事

殿様より御座りし事

しる

十月廿四日 若殿様初め 城下より御座りし事

舟上より御座りし事

十月廿五日 若殿様初め 御目見しに御座りし事

殿様より御座りし事

しる

十月廿六日 若殿様初め 御目見しに御座りし事

舟上より御座りし事

十月廿七日 若殿様初め 御目見しに御座りし事

殿様より御座りし事

十月廿八日 若殿様初め 御目見しに御座りし事

殿様より御座りし事

十月廿九日 若殿様初め 御目見しに御座りし事

殿様より御座りし事

舟上より御座りし事

十月三十日 若殿様初め 御目見しに御座りし事

舟上より御座りし事

天保心卷

二月十日 沙奥白く用ひて人より二指目量りては

二月十日 申す事敷山

石村院様法華寺 申す事敷山 申す事敷山

申す事敷山 申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

申す事敷山

二月十日 若殿様と申す事敷山

高木村の腰五洞の事

高木村の腰五洞の事

高木村の事

高木村の腰五洞の事

高木村の事

高木村の腰五洞の事

高木村の事

高木村の腰五洞の事

高木村の事

高木村の腰五洞の事

高木村の事

高木村の腰五洞の事

高木村の腰五洞の事

高木村の腰五洞の事

高木村の事

高木村の腰五洞の事

高木村の腰五洞の事

高木村の腰五洞の事

高木村の事

高木村の腰五洞の事

高木村の腰五洞の事

高木村の事

予海若殿様御事所御座候事
此後様御事所御座候事
此後様御事所御座候事
此後様御事所御座候事
此後様御事所御座候事
此後様御事所御座候事
此後様御事所御座候事
此後様御事所御座候事
此後様御事所御座候事
此後様御事所御座候事

文政十二己丑年

正月廿日

此單履取在之御座候事
正月十日
左ノ御座候事
此間御座候事
此間御座候事
此間御座候事
此間御座候事
此間御座候事
此間御座候事
此間御座候事
此間御座候事

物系は由の帳西に記述し以て
中以後お申之候事は此の帳に記述
在り林系帳の物系は此の帳に記述

宗對馬守臣様

生對別
寛政二十四年

御本在之別

寛政二十四年正月十日欠後仕以て後日
御届申上之由の帳に記述す候事
之

文政十二年己丑年

正月廿日

清原

古川為時

右料紙お小も申上候事
清原月行奉之儀

文政十二年正月九日

一 宗對馬守方より此の地は是候地也

一 在り候事申上之由の帳に記述す候事
為正月十日欠後仕以て後日お達

山中溪谷山川各處一草一木

己丑

正月廿三日

野別沙願地村、口、四季打、溪地、松、換、
沙、溪、溪、方、左、右、河、兩、判、沙、龍、文、或、通、
溪、地、也、改、大、也、自、子、織、口、任、德、考、振、高、堂、
地、口、右、月、村、系、口、反、次、掛、公、主、公、出、以、
出、溪、子、力、有、

下野國越後郡月

一 溪地五換 玉月之客元 三音拾公局 小屋村 後口戶 或換

一 溪地四換 玉月之客元 三音拾公局 上地地村 後口戶 或換

一 溪地九換 玉月之客元 三音拾公局 下地地村 後口戶 或換

一 溪地三換 玉月之客元 三音拾公局 出流村 後口戶 或換

一 茨池貳換 玉目之卷元 玉目之卷元 物村 長口戸

同回安藤那内

一 茨池松四換 玉目之卷元 玉目之卷元 作原村 長口戸

一 茨池三換 玉目之卷元 玉目之卷元 上ノ口村 長口戸

一 茨池之換 玉目之卷元 玉目之卷元 船越村 長口戸

一 茨池五換 玉目之卷元 玉目之卷元 戸室村 長口戸

一 茨池松換 玉目之卷元 玉目之卷元 上粕尾村 長口戸

一 茨池松五換 玉目之卷元 玉目之卷元 秋山村 長口戸

公松寺村茨池五松九換

此寺卷場并寺地提的場与寺地也

方拙者少子高比情康了出田畑之荒
百姓及難儀以然又書西ノ道玉込換地
五松九換百姓之領ケ 四寺地力打ノル以若

方之強砲多惡事仕出中一以能又去荒以
高款打山一了和之殺牛杯改以志中念
水及中各五人能之可為世事言也及
中身至以強砲之厥他人志也及中
縱親子兄弟身与少所以是強砲經之亦
俗人信中後曾為以仕身受強砲
中身以有之此打肯以志何抑之世事
下中身各友之五人能強砲形之
之形及是中身亦為手以民以能也

文政十一年正月日身一 濟名内閣刊

鐵田佐地考及

下野國越前郡

女子院

一 強砲之換 玉目之容 出流村

似傳卷場并少等提的与志也

古于子院傾枯麻今出日如荒百姓

及難候以就支書面し直玉返流地を擬
百姓に取回す事去為打申以若右に流地
惡事仕出申以就又々荒以高敷打以事
仰し殺生好致以志申人々及申卷
五人取とて為世事与急度申分置以
此流地に候此人々及申假取子足
与以流地取とて外他人に借申候
曾与以流地与急度此去事子高取同
此申分以左の如書以志何控し曲事候

万中身名取とて五人取流地取とて
子取取置申以力事以民事取以

文政十二己丑年正月日身了 御方申判

御田任地考及

右与通料成程村候之色口紙と書
申之趣流地と書御方

乙
七月十六日

去八日沙目付金東甚目家新柳より
沖城中へ口は法蘭西居出は出立國
法蘭新系駕へ徑通は沙免へ
留來代替轉及申へ節沙目向
之儀三月沙達は成は品は存今日
左へ此書書は届り居樋口右内
金東極口持來は用人掛合致也
沙目見仕は家來の内法蘭西家來

駕籠より通行へ儀申立並作者
病死又志代替名改申へ節志早延
沙目可仕名目
沙目見不仕は格式轉及考仕は々
法は返仕且又是迄は届亦不仕者哉
此度は々及調子あり申上名は作後
申上名は右法々申へ内尚時沙目
申上儀は沙目度は以上

宗對馬共内

二月十六日

檀口古内

古科紙抄小書古字切上色岩城

己丑三月官

理卷院極淨成河之辰
殿樣淨面知一以日保古古古古古古
沙和書也同古名植口右内抄末古古古
青山下野古抄西沙九洲牧管由遠古古
多古古古古古古古古古古古古古古古古

与一後古古古古

私婦九條右大臣殿古縁之古古古古
引紙古古古古古古古古古古古古古古古古
死云

忌母日

古月廿六日
古月廿七日

服九十日

古月廿六日
古月廿七日

古古通忌服古古古古古古古古古古古古
日殺古古古古古古古古古古古古古古古古

今午首一日遠處往此既涉而
中上公也

正月廿一日

沖岩

右科成大書也切上之也

戶通涉也及公村大治國府
備後之兵也表也使者之
涉也書也

對馬守婦九條右大臣殿上縁廻

信符一紙在去子正月廿一日
京北死去

忌廿日

正月廿六日
正月廿七日

後九日

正月廿六日
正月廿七日

右之通對馬守忌服清中
私云少一涉也往無誤對馬守

國許苗正月十日致知書
日致知書正月十日致知書
市川苗柳上及苗中身此後中六
上

二月日

平田内通

右新紙おのり切と色紙

乙丑四月十五日

市川苗中身此後中六
市川苗柳上及苗中身此後中六
市川苗柳上及苗中身此後中六
市川苗柳上及苗中身此後中六
市川苗柳上及苗中身此後中六
市川苗柳上及苗中身此後中六
市川苗柳上及苗中身此後中六
市川苗柳上及苗中身此後中六
市川苗柳上及苗中身此後中六
市川苗柳上及苗中身此後中六

法用。有朝鮮人參。當時大坂者
上品。所引中品。所引貯方。以合
成。出。身。年。數。有。右。之。處。者。為。之
難。和。分。非。乃。早。速。大。坂。者。口。中。也
以。和。可。比。以。右。左。性。返。每。五。個。方。左
日。數。九。三。十。日。程。後。可。相。掛。式。身
者。以。以。後。也。若。中。上。非。以。上

御名内
月十日
樋口右内

右表通科候お小書書出切上。色岩城書包
御名内。河素。与。德。

已世。口。月。廿。日。

以。勤。定。之。身。乃。去。方。出。書。書。出。切。上。色。岩。城。書。包。昨。夕
法。向。書。居。方。口。以。口。切。候。去。十。五。方。以。向
及。以。人。參。式。拾。五。口。以。合。行。程。後。以。上
五。個。方。口。以。御。名。内。口。以。御。名。内。口。以。御。名。内
等。一。以。御。名。内。口。以。御。名。内。口。以。御。名。内。口。以。御。名。内

權口右内持来涉劫定銀元二角
海十隊及古劫定之浦劫定銀元及以爲
若金山銀元與之江持入本指名一銀元
江上劫定

朝鮮人參式拾五元涉買之銀元
出均志伏金付銀元式或或或或或
去己酉年涉賣之江銀元是行付
代銀拾元費九百圓之割去銀元拾
五元之價銀式費三百式拾元

去之式產元元本及中江此後
涉身付以音中上下以之

涉身

四月廿一日

權口右内

右通書付若金山銀元八元及
劫之音及出音在江書元及後
涉身音五銀元白若金山銀元
運去

物解人多熟之因能之亦不
以安之車能之百目付代紙行程
右邊比式且物解人多熟之因
底寫有之山色之百由能之上亦
右智識之入多之山安之車能
百目付代紙行程之右邊比式亦
此所為表之解有之比式又
邊表之之之大阪表之有力
比式在之之在解有之行字

名守其物書符其之
字

已丑月女音

昨女音 津城中之口在之
有之山人多求位且之在合之有
沙若書之之色五調法而之在梅
右内 津城中之口在持者之動宜
三浦劫之高及出書之符右書曲

釜山比叡海軍艦隊駐屯地ありて海軍
要台に於て

朝鮮人參事館上田根上上中一分
法買之車後百目付代銀行程
相及比式且朝鮮人參事館内
祇等有力の山色も百功能と上京
相智後子と人參事館買之車後
百目付代銀行程と相及比式右京
此節改修貯有力の山式又中

改修後と云ふ大坂表と有
比式た山と古貯有力の行高
有力な中と山根とと法事と表
た法表と中と山

人參事館後と中上並山通
拂底後田根と時勢と山
上中一分一箇と取入と中
能出束道と少と宛買入
右と内と權と率始と不時

我上等為仕の儀、少許の富、秋、冬、
同極、水、夢、拂、の、儀、之、由、り、上、
上等、之、由、り、上、等、の、由、り、上、等、
少許の富、又、之、由、り、内、底、等、有、之、
功、能、上、上、等、の、由、り、上、等、
人、多、少、由、り、上、等、の、由、り、上、等、
仕、の、由、り、上、等、の、由、り、上、等、
拾、貳、分、之、五、分、之、由、り、上、等、
及、表、之、由、り、上、等、の、由、り、上、等、

中上等、並、仕、の、由、り、上、等、
貳、拾、分、之、五、分、之、由、り、上、等、
如、何、復、驗、之、由、り、上、等、
和、分、不、中、仕、の、由、り、上、等、
早、速、吟、味、仕、の、由、り、上、等、
此、後、沙、尋、之、由、り、上、等、

清音内

定例音

樋口右内

右、山、子、香、堂、五、平、山、處、長、右、山、勲、定

細民之... 津... 後... 中...
右... 能... 分... 有...
此... 色... 諸... 年...
之... 志... 式... 儀... 案...
列... 為... 障... 不... 此... 付... 右...
津... 城... 之... 有... 直... 十... 案... 色... 德... 至...
此... 之... 亦... 法... 取... 又... 之... 如... 可... 此... 至...
此... 中... 之... 選... 出...

此... 之... 國... 之... 色... 心... 之... 去... 德... 之... 出... 以... 其... 生... 刻...

其... 至... 善... 之... 心... 之... 去... 十... 之... 案... 中... 以... 右...
中... 述... 之... 亦... 有... 之... 西... 之... 案... 之... 色... 心... 之... 去... 十... 之... 案... 中... 以... 右...

朝鮮人... 考... 上... 不... 有... 案... 庭... 未... 有...
我... 上... 又... 十... 法... 案... 之... 案... 難... 相... 成...
功... 能... 志... 之... 亦... 不... 能... 儀... 之... 人... 考...
貯... 有... 之... 以... 式... 之... 儀... 法... 之... 亦... 有... 之...

右... 人... 考... 之... 儀... 之... 我... 之... 人... 考... 擬... 定...
以... 前... 庭... 其... 外... 之... 符... 不... 宜... 亦... 撰...

卷之九
中支撰下人多法
男之平位之海之毛之
人多有各自有金
六支銀控或中分
之四支之二支或此支
中支行人多有或控
五支支位之海或
右撰下人多有同
車位之中心支
以平位

除小尔与衣上撰下人多有书福
先達而進之山實之新出山位
山位山址江波时表表貯貯之
大坂表之江江貯有之山或
於波表表分不中山雷法用表
涉渡山之平速吟味法中上
山位可仕山或此位涉為之付
中上山位上

三月廿三日

津名因

瀬口右内

已丑日母女官

昨日涉遠之無今字时
津城中江口法南与居梅口右内
北之山云又山動定酒以高心津高後
山動定之浦動之三而及出考丸之
涉書取江右渡山付大坂表口中越

法充中事山下野中侯正南宮在江
那在為持來涉猪子之為之公用人
河在猪子排合法内人之為正北地
涉化江之付中事山下野中事
後刻正北山下中事山下野中事
系之正北山下野中事山下野中事
公用人正北山下野中事山下野中事
下野中事山下野中事山下野中事
正北山下野中事山下野中事山下野中事

江中事山下野中事山下野中事

私奉勤方之儀

若君様沖誕生之為涉祝詞
後朝鮮國祝詞使美渡山付右
祝詞對話之上可致奉府台
正北山下野中事山下野中事
祝詞使渡海方候及避是系
不遠渡海可仕候事今度中候

世月十旨
涉祝詞
祝詞使渡海
以天南年事
方及例の時
比合候事

然處當七年之後若涉順正歲下
波立國以常年以博其為石也
伯出並以通對話在漢次中波若船
以板右心博可中以式最早參勤時若
相後以事在當秋例之時節參勤
比令以使者身同以板可仕以式何共
涉若圖以成可仕下以以上

三月六日

涉若

右科波大身去也切之乞也漢波身去乞
涉若總

對馬守參勤方之儀此節別紙之通
年同以新史

若若若樣涉被生之為涉若儀送朝鮮國
去其秋之間款宿使若波以若以留
對話在漢次中國許若若以心博
以波以若以遊涉若中之以通波海
時節以之遊是仕以若去子年中

參府比以板書成不中云博色次牙
以度自然處當世年之儀志涉暇
其成下致在國以常年之儀志山官
對話後其儀在國以治符法成下
及秋例之時節參勤比合以使者
其伺以板書其涉沙法比下並比志
雖有比合下其書教比是等之類
其派涉內禮以板對馬書中符越
比符欠志此儀書中比以上

涉在內

仁延那書

五月六日

右科波書小書去書切之乞定據書去乞
涉在內何事之德

已丑五月十六日

朝鮮國王元化以來公使貿易約定之儀
其法元以書其書大儀之書乃之廣增

方之底去之巴尔年ハハ能立ニお成
年ニ武万行先子ク子ノ宿指賣出宛
正派同甲申年ノ朝ノ正ハ付ハ能池
別子ク子ノ賣指ハ先有ク歳年ニ
年海ニお派ハ付能行捨ケ年ニ宿又
武万行ノ増賣ハ先ハ治付ニ下ハ能
年ノ書面ハ調朝解決用ハ付決充中
書ノ下野書換ハ捨子ハ治宿書在植ハ
右内指奉公用人沈田七存書能史舎能

主意下色中述能立ハ能ハ先ハ特入
取能立能立右年書面ノ下野書換ハ能ハ
年ノ能立能立中ノ年ノ年ノ決内用決能
決充中水野出能ハ能ハ捨子ハ能立
公用人子十川在次馬能對右ノ下野書換
能立ハ能立指奉能立又能立ハ能立能立
中述ハ能立能立能立能立能立能立能立
能立能立能立能立能立能立能立能立
能立能立能立能立能立能立能立能立
能立能立能立能立能立能立能立能立

己丑正月廿九日

御書

書南水左衛門督長考
奉旨御書御書
年方五十年一
下年式方引先加各
推方引とてお宿の
本年のむ去年年中
とも若長徳金中
度方より持出の書
於るおとさの書
大書指若南の御書
三月の御書
一の御書の書
御書の御書の
御書の御書

朝鮮より取六山苗考龍大坂
賣捌方之儀實改十一巳未年式方
金子七百兩と定數涉極正以違違
先年以來の貿易入送之品物書簿
以付茶種乳見智法取兵嶽中少
以留龍大坂苗考賣捌之儀也
其額山金又 涉國通頁五十年
去々年式方引先お増額金去々年
買方金子七百兩と定數涉極正以違違

涉免之 以付其後年取書簿
同甲申子又、其額山金去々年
涉國通頁五十年、留賣増以免
之 以付重考之儀有書簿以違違
先年彼國取作打續の貿易入
送之品物取書簿一人考之儀也
去々年以前より出方之數書簿
以付之儀也、其額山金去々年
以留龍大坂苗考賣捌之儀也

祖之儀就為七年命納定之禮單
考之唱山人多道其果于不位惡
書成一向能請取改示之儀之慶友
排合書亮以備其考以書其激之時勢
其理之所在數年未收之書成
公貿易眼目之示有之通成以
羨感之極苦念之決身之涉歷以
有人考其外入送物相涉以
云乞那今之某種相涉請以

年儀中烟重之黃今入送仕
今程多教持抱此書若就其前案
中之山黃其考增慶之儀為年與
年限書滿中山安此先涉定之數
式方子子七百斤外慶捌之送食
之之羨感之次身涉歷皆格列之
涉情懸之今星年式方引亮
十年年之間增慶涉免也
作對之今山書列為慈有一書格

此長沙會館之庫方有持渡
黃芬亦亦言以前志費指亦亦面
可江成之既無名濟遠之越後
少度山率友其國之山也如行快在
涉英國次中之有心憐一市之勿編
涉隣交之財不私取之財之德之發
山雷增費法免之山財之不山快
何分直涉涉法之程子亦亦類上
以上

濟者因

五月十六日

榷口右內

在科波亦亦亦亦切之也崇博亦亦
濟者內何某也德

已丑五月十七日

朔銀七萬渡山家武洞拾方竹之內
荒洞之方竹吹洞七方竹外之吹銀

五五方、價銅五方、釐金拾五方、
年、以賣海、以賣年、大坂銅、
所、荒銅九方、吹銅六方、
荒銅六方、吹銅九方、
荒銅、以賣、
銅、以賣、
小、以賣、
山、以賣、

切、以賣、
用、以賣、
淡、以賣、
持、以賣、
以、以賣、
送、去

已世七月廿日
書、以賣、
書、以賣、

朝鮮、以賣、
荒銅、以賣、

宣武後嗣指方有每
吹浪後嗣方有在
却合指方有在每
嗣方有吹浪下也
荒祖三十餘刻
全未取後山積
三去百年分遊
吹嗣方運越未
去其後山積
後方有吹浪下也
荒祖三十餘刻
全未取後山積
三去百年分遊
吹嗣方運越未
去其後山積
後方有吹浪下也

價嗣方有竹部合指方有竹部價後
吹嗣六方竹朱也志荒祖六方竹
吹嗣九方竹其祖七年荒祖方
子方有先沙廣後山越太坂
嗣座方有竹十知台江右邊後
彼北山荒祖方有人方有中越山後
右荒祖後山朱二方竹也後
荒祖山以前方有竹部定山龍彼北

有後要用在後山後山未國中
然荒祖多教涉廣後山吹嗣
減教仕山也公貿易以前方有
約定觀銘仕山定入祖也甚山家
甚山或志方吹山山後山吹浪
取出方有竹價嗣方有竹之儀志彼國
高祖其山後山後山後山荒祖
荒祖山也志此山後山後山不
和後山也車山後山吹嗣也山也

取此方後經子屬壽考或感德
次等之區經山者之幸情亦分明
主成十荒祠三方行志限其解
吹洞志之涉廣液亦不似法後心
皆留右之越洞經方之亦不知
亦與上之能有一等教此限河分
身願以上

五月十七日

御書
仁位聖書

右科後亦小書書切之包先味也之包
御書河東之德

己丑五月十九日

朝野人考大坂表口在分方下
一徹去月廿日也勘定之次言山
也勘定之浦勘之新度之
大坂の御書非也今口時
御城中一口口河面也居樋口右口

此等之浦劫之節度出入受方一書付
管出此等如信元非等近也

沖奥向津用 亦之品朝鮮人參事
同撰下等并同中品等并右内
法買上可等取非方大坂表
亦等以御若權為其有合次方
以似以日之似在非并早速大坂表
中並以似然上用之品是也
正上人參事格等之野山等方今度

贈越中非因先叙中上之品法滿地
教上殘武格等之取持上之品是也
目方百目之取中品河是也法等場
等取下等下品以上

五月十日

樋口右内

沖着内

右科紙お小等書中切之六色岩城等書包
沖着内は果と也

己丑正月廿五日

涉勘定其方出書者極其真白
以用之付胡餅人等以實上之
以方方去月書首以治達並付
以版去十九有書面之此屆中
一時其音去方極其切紙者百
以實上之其版此其書首去治
達此其書首之付紙形之其版
中上之無人今日其書面此
此屆中上之無人今日其書面

樋口右内并掌領者お附

涉城中口口持卷涉勘定紙

深十部及心勘定之浦勘之部及

以心之書信紙退之

覽

一人參百目

代領九也之百指式

金ノ百指式式朱浪

一通之序

正月

通口右内

己未八月廿日

大納言様沙汰生為沙加後胡能國
法使渡海四月廿日對府者五月廿日對法
如海抄渡之書翰一箱此流
為差上作付也國使志此流等物為那
為與也 以付也 今日沙加通口

右内日道胡能國用事
參之上用人 汀野勝茂
書翰 卷之五 西沙丸
水野越前守 卷之九
一通沙加掛合卷之

沙目附七月音

沙目附七月音

沙目附七月音

大納言様沙汰生為沙加後

從朝經國法度後抄後

書經之類上以射為一類也

亦別紙一通

從法度口書之亦連出中封也

書經一箱

從大書表後之書經

西九書卷中

以用為此冊

亦目附七月音

亦連出一通

水野越前守

大納言樣抄教生之類下

從朝經國法度後抄後書經

法書上以射為一類也

亦別紙一通

從法度口書之亦連出中封也

右書經法之方且書經字在

羊天無樣抄記記錄詳之

殿樣也眼也

從法度口書之亦連出中封也

法度抄後之書經為也披覽此書此法也

今日紅毛之作為清光中朝鮮用
字之喜志下野守柳以清光中居柳口大內
均表之用人汀野播荒而為其志也
亦以此為心

一筆波語上作今度後朝鮮國
譯官使元液作對私議見取成下
清暇序國仕作為嘉祥從禮曹
參議之書翰到東仕作對為抄披覽

差上之條恐怕謹云

七月音

青山下野守柳
水野出羽守柳
大久保加賀守柳
松平和泉守柳
松平周防守柳

書旅例通家入新之朝能之來

墨澹之類入掛合紙之類
此等書切封
仕家上書古之通
節之探紙書外在
回紙

從由節之別蓋之類
探紙
袋之仕之大小探紙

私儀成下沖服帶國仕作爲祝詞從禮曹參議之書翰并別幅

從沙回押之書翰袋上書規之私儀之行
或下四服一書裁有之由之沙回押
亥年五度之沙祝詞之由夜お米之祝詞
中上之例及此條之例之由之書翰
西儀行年之沙祝詞之由儀書裁之由之
此一書之沙祝詞之行之由之
乞之由之由之由之由之由之由之由之
由之由之由之由之由之由之由之由之
由之由之由之由之由之由之由之由之
由之由之由之由之由之由之由之由之

預之書物西家之事在河心之不
書我之進非方一就名及涉談家上書
大之通也恐以彼中來丁夜之通也
以原以此故也恐且再夜同治
四拜中一未簡以披見也恐上以通例之
作身及於原非處年古例涉書控
お見い事

朝鮮國禮曹叅議李

根中

奉書

日本國對馬州太守拾遺平公 閣下

曩因風便獲聞

穩涉木道

返旆珍相欣慰倍常茲憑古官庸伸

起居不腆土宜

莞雷為幸不備

己丑年正月 日

禮曹參議李

根

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 日本, 禮曹, and 參議.]

真別幅

人參伍觔

虎皮參張

豹皮參張

白苧布拾匹

白綿紬拾匹

黑麻布拾匹

白木綿參拾匹

花席拾張

霜花紙拾卷

花硯參面

四張付油芭伍部

黃毛筆參拾柄

真墨參拾笏

際

己丑年正月 日

禮曹參議李

根中

和解

先般清江大波義氣の處海流を
清別乘に成し歸國の志を成し其度
沈府の清安を同くし種々の上座
此等清江の清安を同くし種々の上座

正月

己丑八月廿五日

人多く清江の清安を同くし種々の上座

及入梁之殿史昭矣之不時致秋上
惟授當六月七日先中水野出羽
沙書及之沙達也成其後也承知也
惟甘也請也留也居名元之書付也同而授
也儒也口植也右内持兼之用人清水
新十所也思合也也非處也也也也

但右沙請向也殿的例也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也

右也也也也

前々象勸也禮也節人多也引元
獻上とは非處也近年拂底も用意
難也整非付先達も南分外も水
也替也 治付も各人多も入也
不時秋とは法也也付付也也也也
也也秋也也法は也也南分也也也也
也也也也少も方也也也也也也也
也物も也也也也也也也也也也也
也也秋とは法也也也也也也也也

御内覽之表上以御之法律之違之類
本要國譯江中。違之類又及乃方
精之及御之類。類違御之類。或上
御之類不時被之。本御之類。右御
對馬書中。御之類。御之類。以上

御内

樋口右内

八月廿五日

右科儀本寺書上。包若。或書包

御内河東之德

已丑九月十三日

御之法律之類。向以。違之類。御之類。子年。或
圖書。在。御。中。年。之。法。御。受。去。方。或。子
全。之。內。三。方。五。子。或。御。之。類。或。內。或。去
若。上。之。類。及。以。海。法。之。類。或。類。或
若。上。之。類。或。時。之。類。或。御。之。類。或

只道是會來之至後矣之乎况新之
以借財少會之以此入我能也來法凌
不亦成以以法以此揚不亦法中自有揚志
出有心來粒又筋之以此言來法用粒
以動定其以材恒法法者非揚志者元之
事而九調以內覺之其也其也其也其也
好之以此言來者有之此不亦其也其也
以法法之成也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也
以法法內用以此水野出羽中夜以揚志
參之公用人法水新十而西會類之其也
一下色中述在事而西出山其也其也其也
形也其也其也其也其也其也其也其也
以付粒又及接抄選出

對馬書贈子向龍法之次才去年十月
不奉顧慈其法其法其法其法其法其法
其法其法其法其法其法其法其法其法

沙率江沿邊內預書之於邊疆以志
正極其好也進之於家沖嚴命于其
出得志方得休約之法也若私者雖
公勢也如此法收復之子為家中按育國內
零落不仕校打南其有甚也均對列依
進之其法沖種小道不充因欲之去比也
收納子米之言石條荒麥女子石能受則
對列一國之高也其法也其犯前國因之
順托之子八百石條并朝鮮公貿易取之
而勢外之年一洋受之也其法也其方或卷
因法也當托武方石在也其法也其走凡等
石條之牙代物也其法也其朝鮮涉及後之
付也其法也其家中人教養也其朝鮮彼
中之後其法也其國創之也其法也其遠國海上
往來不財入用此邦之稅收入費多國病
有之進之其法也其法也其法也其法也
右之其法也其法也其法也其法也其法也
之後其法也其法也其法也其法也其法也

沖用之 治國異國之辨合此流母年
在報其書之用莫大之儀言能及自外
也借財之取也福皆年之利是也高
只今之言志方金也報以利息之也按
也成牙代能立乃為惑公痛之法
以在也省自也之儀約志不及中三之津
町人者亦有之儀金子之年也其年能
返海之也法也也其內以法也其
有之也志也其之及高也亦有之也其
種之也按之也其能先也其也其也
其外來能之付也借法也金米年能
上納也也 治其也其也其也其也
口之也其也其也其也其也其也
如只今利息之也其也其也其也其也
牙代也其也其也其也其也其也其也
犯其也其也其也其也其也其也其也
皆也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也

破損仕胡船より入る本海軍艦
流失と云ふ事又々大坂より下
相積令より一艘を列強中浦
破損仕る遠國船海へ通船天災不
儀多し中好く自色に船浪汗流
中山乞肥紙の順中食民飢饉を
山皆難穀法草書と云ふ急船松
救を和山社に成國許と云ふ米
別中糧食と云ふ支金船おま
一冊、凡て米穀買合書後船は
不情に朝鮮より五合約定米
石尖先送る儀及平議山を先
有る事左被願諸山皆此今年
子當も不都米ならおま
来年より三合年より朝鮮五
米穀買合と云ふ儀被是船浪
破損仕る遠國船海へ通船天
災不儀多し中好く自色に船浪
汗流中山乞肥紙の順中食民
飢饉を山皆難穀法草書と云ふ
急船松救を和山社に成國許
と云ふ米別中糧食と云ふ支金
船おま

一冊、凡て米穀買合書後船は
不情に朝鮮より五合約定米
石尖先送る儀及平議山を先
有る事左被願諸山皆此今年
子當も不都米ならおま
来年より三合年より朝鮮五
米穀買合と云ふ儀被是船浪
破損仕る遠國船海へ通船天
災不儀多し中好く自色に船浪
汗流中山乞肥紙の順中食民
飢饉を山皆難穀法草書と云ふ
急船松救を和山社に成國許
と云ふ米別中糧食と云ふ支金
船おま

恐懼之次身存教不增其對列之儀不
化邦之遠學其國之接對之 沖用場
國內零落之次安之志涉汲儀不盡
缺合之 禮山場中借財取形付利息
出捨之 換子幸方若書卷之 聖出
去處身代物子為之有之 山書

公惠之涉全義利是之出捨之 書
穢殘念口信法身之 書卷之 聖出
時日之送不之 書卷之 聖出

相見不中 重之自國之 禮

沖用出 仙出 財名之 聖出之

沖特恩其功 換後之 書卷之 聖出
如行解之 不其象涉沙法後 聖出
寢食不安 書卷之 聖出
借財取形付利息 出捨之 書卷之 聖出
出舍身代書之 期書見不中 書卷之 聖出
心痛之 不其願 書卷之 聖出
出舍身代書之 沖仁情之 書卷之 聖出

別後之法被奉以年々流受也

信實山方武子金之内より七子友好借也

作付込成下上納方之儀志改七年

末巳年迄涉宵免込成下翌年より

七ヶ年迄法門迄成下此上之

沖高恩重く雖有仕合可成教

此等之趣成流 沖内種山後不教

不違之儀心怖之次申の程山博行分

沖實志之以思石沖博慈之涉沙法

如 信玉込成下此候方申願之山

以上

沖高家来

九月十日

田島左近

右科成申上申去申切之乞出様奉也

沖高家来行某之儀

己七十月日

若君様沖誕生 对胡鮮國公告知方候

沙掛合之乃而作之也

上意之也省以沙書付之象以之付以象

之沙礼也勸白之殿也之書而例書

之烟以用者松平和泉与坂口也富与居

之代味本實原部均系之用人以役平金

西与也出也明白退

城时之沙也之成也之平也之付也也

中述也

若君様冲教生也胡解國也告知方

己丑十月廿九日

沙書九

使札在越公

在江華

之儀彼國之掛合乃而今度

譯官使也渡一使也

上意之也冲省也沙書付之也渡也

大用也勸也家來也者也相傾物

也以付也於國解對馬也善也社

非也上禮也殿也何也勸也中も也

付使也同也也也

沙書内

十月廿九日

味本實原部

例書

寛政元己酉年一胡解任使來聘
沙那延之爾爾斗以爾波國掛合
之序行上海作封

上書之旨以沙書封之信液其上
太清用扣勸の家來者之扣願物
之序封之信公國許對馬島義知
之信使札以禮中之作之書也
以上

十月旨

味本覺次郎

上包岩城上書例書也

己丑十月十日

一 中 國 田 代 京 大 坂 且 北 上 村 浦 在 獲 劫 質
法 源 寺 在 宗 門 改 抄 原 紙 沙 那 判 紙 總
宗 門 改 抄 浦 河 勢 与 信 上 高 宮 居 次
味 本 覺 次 郎 抄 卷 第 五 書 在 歸
一 切 支 丹 宗 門 法 源 寺 之 解 志 今 以 改
抄 先 年 之 作 出 沙 法 復 書 之 意

一 孫相守松原中一并為沙口為新以下作
地可去之可之之之遊家數令家中之者
ト之之之之之之及又改令議之處不審成者
之沙度之事

一 願中并為沙口為新以下作
可之家中之者ト之又者之之若此以後
不審成者於有之志早速可ト達事ト

心止

文政十二年十月十日

沙卷ノ兩判

松浦洋物与度

次田大隅与度

己世十月十日

來寅年 沙卷勸此河次高六月

沙達之趣及有之 沙卷勸此河次

沙時節 沙卷勸此河次今日高田名居樋口右内

以國使者同道法用番松平和泉与度西

心九附水野越前与度口上西海与度

沙卷書 沙卷与度 沙卷与度 沙卷与度

退去委細日帳有之

己亥十月廿二日

烟解山浪沙... 價... 年... 通... 沙... 水... 沙... 公用人...

沙... 入... 書... 沙... 中... 也退去

朝鮮國... 年... 代... 二十...

己亥十月廿二日
形... 津... 委... 亦...

此非處年限お海回甲申子又
大目地、板橋河等外先業渡
下、此是、清移坊、之、以、之、
浪、所、方、に、此、中、の、地、處、由、七、年、の、
年、限、お、海、の、村、に、又、波、國、の、子、及、此
中、作、業、去、年、の、水、野、波、浪、の、波
破、換、の、村、此、今、年、の、出、方、里、波、の、波
等、し、の、海、を、考、修、浦、と、か、り、立、の、村、此、
入、送、下、波、此、是、進、後、是、と、し、通、渡、河

波、渡、の、と、此、出、方、法、持、下、限、中、の、
去、後、年、一、十、月、此、出、方、は、清、邊、此、是、の、
清、業、上、は、の、江、東、九、ヶ、年、の、お、城、の、波、
子、七、拾、貫、百、目、條、清、業、上、は、の、水、と、是、
此、今、年、の、大、事、清、の、少、く、又、進、の、
お、見、中、の、海、を、南、時、の、後、に、お、す、の、
は、先、是、と、し、通、の、出、の、地、に、清、業、
の、事、し、つ、た、の、と、東、海、年、の、一、ヶ、年、の、
お、ヶ、年、の、名、詞、五、方、り、先、代、初、二十、四、月

學子六百七拾五案之抄成居過年一死到

美大之抄成誠且安次中一抄年帳

抄之細方節、清田意抄於今日抄六

書面以面寫居、通口在口心動定其以

村垣淡路之抄、抄泰以用人面會其意

非處、抄法其抄成以抄中、抄以抄抄

中述其解

對列之儀、美國舊儀、其抄對馬

期能抄及儀、其抄不時、入費多

抄多、向維之抄、家中、其抄育後院

抄成、抄其抄、抄列、其抄象

抄特恩、其抄、非處、其抄、其抄地

抄禮、其抄、其抄、其抄

抄用中、其抄、其抄、其抄、其抄

抄代、其抄、其抄、其抄、其抄

抄美、其抄、其抄、其抄、其抄

抄只、其抄、其抄、其抄、其抄

抄美、其抄、其抄、其抄、其抄

己丑年正月
年帳以之商名
作自抄書者以抄
其抄其抄其抄
其抄其抄其抄

沒儀發不如此

公勢第一如欠之勝為之成以時

三夕之計町人去之信成五年

直振年賦返洲等之由該寺如卷

勝為反事之為師必之心配仕

之在也他處是年以來馬檢町

寺用屋安山安附合惟東邊在進

道方八子五拾支如信仕居右返納

如海子中一山也勝為之亦與之為

合難如之作付種之地心配仕以時在

大命之事一取取由返納之候之

以有喜之決發遠山合助成其今也

返納之道之附進可中一山也進

元利美大之如成之之良之也為

可取洲集之之信成以一事也

寢食不安而感之極之在也然其

進也寺寺傳之發發身之入以得在

河乘別院之山河法者及合是百

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

八子子孫おと来富、年々正利は孫子
候三納、此御計より成下、去、亥年、
亥七年と評判令四子二百七拾三
二分、案、此、名、合、お、洲、の、三、十、
上納、此御計より、此、御、計、の、
返納、之、為、お、之、對、馬、と、評、決、用、と
お、申、上、候、也、此、御、計、の、
御、計、の、大、小、之、宜、易、預、為、御、計、
此、御、計、の、大、小、之、宜、易、預、為、御、計、

此、御、計、の、大、小、之、宜、易、預、為、御、計、
此、御、計、の、大、小、之、宜、易、預、為、御、計、
此、御、計、の、大、小、之、宜、易、預、為、御、計、

十一月廿五日
榎口 右四

此、御、計、の、大、小、之、宜、易、預、為、御、計、

己亥十一月廿五日

之貿易約拾萬斤之內五萬斤在甲申
清賴之品在代納貳拾四萬斤清廷常
以財進以乙酉年之乙酉年限如海非
是之形之清賴港之收度也其書
力之調節之清田意也其今日胡然
之有字之書之野之頃以勝之田之居
極之在內也其公用人之野勝之也
一之進之也其清田之覺之也
書之面之也其進之也其出之也其入之也

與之也其物入之也其書之也
其清田之也其清田之也其清田之也
清田之也其清田之也其清田之也
清田之也其清田之也其清田之也
清田之也其清田之也其清田之也
清田之也其清田之也其清田之也
清田之也其清田之也其清田之也
清田之也其清田之也其清田之也

朝鮮國之使對馬島每歲之使
之物之內以前之清田之也
年之括萬斤之內以前之清田之也

己丑三月廿五日

伊書取

書面洞代納方後

從又來寅年より

己丑年 同二月

從 後 六 程 和 惣 洞

引 替 代 浪 和 洞 以 在

己丑年

以下作處波國年之貿易所書表

以上出之之正此打續約定之取物入送

如洋行勝為所支取賣渡之洞即取

之入買法以之取難出來去己亥年

以來進之 津地賣之儀取預作如

之之及每 津中ノ通直預之通

以對難有法合取好以法以是取甲申

有取預以洞五方外代納津地賣

年取取取七年之取如滿以對來

寅年より之取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取

維漢一時功餘亦見其
去秋頗有風換亦為
維漢進軍
以對於南時代
維漢亦見其
以來之貿易亦官
方亦見其
清後命亦在
以對於南時代
維漢亦見其
以前之遠波國
人亦見其
以前之利博
亦見其
波乞中之約定
入送之品物
為亦見其

風習亦見其
以前之利博
亦見其
波乞中之約定
入送之品物
為亦見其
掛合亦見其
以前之利博
亦見其
波乞中之約定
入送之品物
為亦見其
清仁憐亦見其
以前之利博
亦見其
波乞中之約定
入送之品物
為亦見其
以振亦見其
以前之利博
亦見其
波乞中之約定
入送之品物
為亦見其
年年之五十年
亦見其
波乞中之約定
入送之品物
為亦見其
清亦見其
以前之利博
亦見其
波乞中之約定
入送之品物
為亦見其
亦見其
以前之利博
亦見其
波乞中之約定
入送之品物
為亦見其

洋城水海子方難有法合一其好
此後河分道在預上以上

津名

十月廿三日

樋口右内

大津渡水書半切上二包出城

津勘定奉行村垣渡治右左衛門守出意藤
田國藏作百

津城中白口人考心海人少也此城

一此乃津浦右左衛門守中東山村昨廿二日
源勘定海津茂右衛門守居方下及
去人お附一少也此心勘定総正大津
九郎右衛門及心勘定堀越免進及出倉
津奥山用一付朝紀人考津實上二家
有合丈津實上二仕多一津達一付先般
水野出羽守柳一津達一不後有一連
至津口一也此以備先未相達不中一南村
野馬守妻子為美爾同方之十日計

清西地口相解... 此境在太史... 大板表... 亦... 出舍... 相... 大... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

近年... 官易... 亦...

江沿達山長大坂中甚波地有合

くも不強水小山常上仕ひくも後

水野出羽中柳より南時清隆少将

品合にお拍一成丈隆文も不時

秋上へ仕立秋上前清内覽は

比頃三成清達は村中速玉解り

中甚少く充ちる後及入山は

中へ不時秋上春同い海は

比更又未お達し中へ南時對馬

素子為兼用同方三十四中清

南時にお給ふは迄も少敷く

少く見所後お方居山備兵

山用は後成り成り居る清内覽

並出中へ成り先般出お

比達しひも後少居る事し

能仕ひる少敷く不時秋上

比夜守おは河邊に在り

了不ひひ

二月廿五日

津名目

天津後多佳

右之書付並出並非處物在也又
 九部左部度免之進及出席者之津書
 之成之渡移又口上之与夫久保加賀之
 津内覽之形之此此相達也津書
 並出此此後之付史之如恐之退在
 自與向津用之付胡解人考以買上
 之儀中該此之商時單表解之同方

三拾目設有之由乃少教不時秋上
 廣津内覽之並出夜台別紙
 之此之此之此右之此中之此通入考
 同方三拾目不時秋上之心得之此覽
 並出此此之此改也

津書

津奥向津用之付胡解人考商時
 以商此之如解之在非之同方三拾目
 不時秋上之換之津用為夫久保

加賀守撰白入清口覽此後之舉
正治後其異公之

清口

十月廿五日

海津茂清

己丑十月廿五日

清奧清用朝鮮人參清野少付所女音
此勅定古事以より清達之由有之當時
清奧地此在合之為少數者以清先般
水野中一水野出羽守撰より人參賦上後

付事清達此後庶民有之作也
清在合分之拾目此節不時獻上可
有同式之辰以女四目此勅定古事以より清書
此書以紙執之續之清用者古深加賀守撰
清内覽之為上之辰之由事一付了清内書
目方為書居名之清書及調人多之入仕之
今日清用者極右内古深加賀守撰
持卷之用人是田了之文宣合之此奧白
將入此之由加賀守撰少紙之由事

漢書地理志卷之六十五

月晦日

河通於上之辰

了意改非事

朝鮮人參河入用之由作同洪節
三拾日不時獻上仕度此辰有同之
以上

十月

河名

大科依中廣有書也切上之包單德候上之

河名

河與法用朝鮮人參河行少其地勘定
上東河より河達之流後以知流南時
河南北之漸之拾日行其地之五之數
之少之見其後相方居百先一魚
水河河内覽其有上之北野出羽
先般人多秋之方之候百少達之
以度百不苦少事少之公其秋之仕
別依通對馬書有河分行分直
河名是成下之根有預非改上

十月六日

津右内

桶口右内

右料紙に書き出上り色紙に書上り書津右内

河東占徳

己丑十一月三日

津國同列中より書出上り十一月十日
書出上り二日書出上り又同月八日同列此
より出師久和村沖より里経る船は美園船

去艘破入お掛居候以飛佈為り迄
子速同真沙に設け陸地より出師下り候
西風浪高より通船難お掛居候
船形去己年漂着し南東船に形見
素より船房通高し船大に相見候旨
公義より書出上り少方より書出上り津右内
防禦上り漏れ居候事又同十三日東州津右内
東南より書出上り設け帆の形見書出上り
し候事及書出上り先形見書出上り津右内

近之也 山出而西方有力之草干九及山而
張方不也 許儀方之 葉房山草以口也
山出之氣出作身能出許後山老中快口
御葉口之葉中來山快葉之氣出快解
清連狀且山別飯之氣出山用着水野
出羽之山山面之居櫛口右内持系
少天次掛合山出作之法也
城中之山山一上可山出限乎一山
近也

一筆波譜上波去八百兩刻對列
久和村神子口吳國船之艘波漂泊泊
作廣西風浪浪言方之地方口士各作
神或和兒不山山身兼白清達之通
發樹之備和立之通作也別而和發作
柳子發在也府今十二百未明東南之
同之指波出帆之委細以別飯中上
此浪御葉内之可中上西期山能能
之增樣也

十月十日

青山下野守柳

水野出羽守柳

太保加賀守柳

松平和泉守柳

松平周防守柳

今御中

沖別紙

今度漂泊仕非異國船之儀久和村

沖口口破之入相掛之處西風烈彌吹之

地予予之程滿非場不可行陸口遮拂之備

相立非之勿備給之者之者船之者備

相立非之勿備給之者之者船之者備

船形之儀橋口本建居去己年當國口

漂着之儀沖葉舟中上之南京船形

相立漂泊中別而相留此怪友柳子發

在沙洲以上

十月十日

沙石

右沙洲鐵大書字切沙洲一石封込

然古沙在府之舞高四女河之口及此他の
光格、竹丸、沙、他書、中、多、依、波、石、
右、内、持、系、以、用、人、無、合、名、出、
對、列、久、和、村、沖、石、口、去、月、八、日、圖、刻、英、國、船

一艘被漂泊非由西風漁波了有
此方口法分少神、發、如、見、及、下、少、身、為、白
沙、達、之、通、路、也、之、滿、如、之、色、如、別、而
如、夏、之、山、子、發、之、舞、河、同、上、日、未、明、東、南、
間、之、指、波、出、帆、非、石、船、形、之、鐵、橋、架、
建、居、去、已、年、對、列、口、波、漂、着、以、南、京、船、
形、如、見、非、浪、浪、對、馬、与、舞、高、四、女、河、之、口、
及、沙、案、内、能、治、遠、北、沙、光、中、柳、口、是、
沙、案、内、非、竹、巡、浪、也、上、之、非、以、上、

青月音

御名内
樋口右内

右科紙如小字書子知上六包若城東書包亦為
河集之德

惣白沙光中柳口沙進達之儀其書
及由居少以水色亦有之居非舟在少岸年
石岩浦流与以口右内持系用入掛合
等出

對列久和村沖口去月八日酉刻
吳國船一艘被漂泊非東面風浪
波言有之此方口止有少辨後書
以竹葉白沙達之通路云樹之備其
作處別而相變少以子後在府回十日
未明東南之同之指波出帆以是船形
之儀橋口在建居去已年對列口
波漂者非南京船之形其見以波
浪對馬与沙光中柳口及沙集内等

此後沙田中上作以上

沙田内

三月三日

樋口右内

右科紙前同

己丑十月四日

沙田定其の村垣法落と初七方
出立と初より出用と後ひる今日

沙田城中の口人考心得山人好むは初
此夕出苗と居方口中東山月流勘定
海津茂と勘定苗と居方下段を人
お附正出山此勘定組次大湾九新右部屋
法勘定塚城免之進反出席此段人考
沙田上方と後相違作交在合と分
沙田内見正出山此位後相違と有と
別款上と反計此然更苗時法行と有
数少と有と此右款上撰下と有と此

品者見沖之我之山拍山る在令
沙買上之成度相又大坂之方を撰下之
云々山成之山成之方先殺中上之
追之國許の中世並山の近來調を
能成成中今心送越不中漸對馬
妻子兼用之令以程款上仕
強強二三之目大野之山大坂之方
直復在令之不強及下沙賣上仕
迎發在令母之山居山の形又

向合世法首一平上段及無言也右山言
山法書其山山知山山達山山山山山
相認山法中上

沖與法以用之付朝鮮人考法由地
在令之之法買上之山成若沙由地
在令母之時大坂表之山山山山
有之極之付及下山賣上之仕名先日
山作波山山又大坂表在令之山由表
沙買上之山山山山山山山山山山

當時對馬と妻子為兼用目方之指目
沙為地はわが重山分先日不時秋上書向
則之通は信付の如く上品劣るは物
不致成撰下ふる後不吉作付上合
沙賣上二仕名あり不致出南地は合
云く時大坂と相対重山後一有
比付沙賣上下仕く沙名草長山
清南地とも當時右あり不致上合
不致度ゆる急速大坂中越以達通

之れ
不致名後上合中山あり
沙見分山下仕此院沙清中上山

土月胃

沙名内

海清後之清

己
七
土
月
胃

己
七
土
月
胃
大
山
月
付
振
り
清
泉
狀
と
名
付

古之書對心用者水野止明之流也
仁臣部也其於春沙那掛合其出也
其成之為子也其儀之為正師

增上寺

台地院樣冲靈屋向沙修護之
此對枕備之沙燈籠電流磨之
師達出後對馬也枕備之石燈籠
一基之沙始金之流磨之此對

多下山法夜寺其此位中之也

青月寺

寺名也
仁臣部也

右對紙抄小書半切上之也

己丑正月廿四日

人多沙野少其亦者之沙拍也
其合之書上其山法其後沙由地其合

少山と大坂表は能くは後表に有るに對
應下山法を曾て勘定せしむるに依違等
沙南北と云ふ大坂表は在るに應る表
等は自傳を以て之を以て之を以て之
及應るを以て別法達に之を勘定可なり
大坂表は方口中せふに在るに依中東也
年始表を用同方器格を以て送致の對其用
六五同門並沙南北表は之を以て同方
式拾目法費上にて之を以て之を以て書面

石網源勘定海津表法書

河城中に石持表を勘定組に大坂九部
左部及び勘定塚紙卷に進度表書面
等が此れを以て之を以て進度表と為九部左部及
亀進度表と為之を以て來年始表と用
引進強目方式拾目法費上にて之を以て
明後表と為之を以て之を以て之を以て清書
等が此れを以て之を以て之を以て之を以て
石網源法用朝鮮人等津野が分取者

市拍子多被取之撰下之義不苦作自
在余市賣上仕此法南北各法
大坂表口お形 此法後之有し 市賣下
市賣上仕此法 官多被違此法南北
大坂表口表形 此法中仕此法
形又大坂表口表形 此法中仕此法
形此法 由中表形 此法中仕此法
市賣下仕此法 然表來表對馬
年始被之也

公方様

内府様

此之中仕此法 此法中仕此法
送被中仕此法 此法中仕此法
撰下仕此法 此法中仕此法
仕此法 此法中仕此法
此法 此法中仕此法
多速送被中仕此法 此法中仕此法
此法 此法中仕此法
此法 此法中仕此法

野川御子當地之内川之清
高汲令相納_山江_山屆帳

寛

清朱東地
子子院頌

一 高六拾石

清朱東地

普門寺頌

一 高拾石之三斗

寺社頌高六拾石之三斗

高拾石之三斗

下野國都賀郡

高子村

同國女蔭郡

高子村

高百石

但高拾石之三斗
高百石
高拾石之三斗

此倉在分海之倉之屋

但後及
法度

右者去子年下野國福前川大岩川

竹鼻川渡多瀬川通河舊請符同國

河之當地最秀寺社願之分高及合書而之通

取之之法代宿河志友助及上朝中以上

宗對馬書

樋口右内

文政五年青

河勘定所

己丑正月世指

野州河國地百段云云段負波乃與流施也

每歲年未占者揚言云云亦云流負流也

河右元河判云流龍文云云屆云作云法

作法甘苗節力流施不張乃揚村段人於

石中少之度流施之段云月甘織田流流也

云云屆書云同云居樋口右内村表云居流器

云云

但後物有六段 段表云云屆云云數云云

長海之風書云云

拙者沙島東北下野園部賀郡女獲郡
村並同國部賀郡子院願在部合
拾貳村口願皇玉込流砲拾挺四李在
為打中如先月晦日と打止山有右流砲
及張及揚中如海一沙島中達以上

青月

沖石

右料紙大意書如上色紙濃紙沖石

覺

一 猪拾八疋

一 鹿貳拾疋

一 猪七疋

右通折田山竹沙島中上作

以上

七月廿七日

津右角

樞口右角

人多涉實上方、版牙一昨毋言、蓬、地
今日亦勘定、可、口、形、如、骨、方、一、書、西、水、底
源、勘、定、海、津、後、之、津、并、案、願、者、如、附
津、城、中、一、口、持、卷、亦、勘、定、烟、口、大、島
九、部、方、部、度、口、勘、定、堀、紙、卷、進、及、西、角
並、見、此、卷、亦、九、部、進、去

覺

一人參 貳拾目

代銀之費八百六拾貳分五分

金、大、二、拾、五、錢、銀、貳、分、六、分

右、通、津、度、候、以、上

津右角

海津氏之請

七月廿七日

文政十三

庚寅年正月十日

寒中河津棧燥沙使札云

時節延引甘清届書函在通

名調沙用番青山下野寺候西

清丸附牧野浦前寺候口占田寺居

樋口右内持参口占決掛合

行上長之候沙口占候

云

儀對馬島寒中為河津檣
以使者獻上物仕作扇船中
相滯作式使者未到者不仕
時節延引仕作竹器辰沙由
中上收以上

津卷

正月十日

樋口右内

右科紙抄小書仕物上包若檣上小書

津卷内行某之儀

庚寅正月十日

時夕津用教以勅定事以七方出雲島
以爲事者方以以切紙之朝鮮人多實上
代之儀舟中該儀有之作自今四時
津城中之口之助役人中一若出作
中來以竹口勅定調及及小法儀場以爲
下及附 津城中之口之助役
以勅定細之口之助役九部大智度以勅定

之清勅部及出席有之
神奧寺用之
同方式指同
代科
例
山入用
朝鮮國
如達
第

如達
第

朝鮮人
同方式
代科
山入用
此府
和府
山入用

上水以上

河内

正月十六日

後小次郎

庚寅正月廿日

由節々 沖泰府東海道此道行々
由日人馬也方決定通不拾人五拾丈也
難行届対鹿小也此の時も候儀莫大

由入種々此此此近年々此振々
百人百丈繼立々此在々書面道中
此此此此此此此此此此此此此此
格々此此此此此此此此此此此此此此
此此此此此此此此此此此此此此
此此此此此此此此此此此此此此
此此此此此此此此此此此此此此

正月廿日附礼
書面何々通
由日人足百人
馬百丈繼立々此
不拾人繼馬五拾丈也
難行届此

外旅仍之遠
胡群押之收收
有之遠路收
外收之事格別
決之承承
一進之先觸扇
何月歲日
相海山版書
下之共共

乙甲申年同丙戌年同丁亥年
年預以品或山度山等沙中通互
外旅仍之遠胡群押之沙收儀
有之遠路收收收收收收收收
沙決之通仍之商日人馬百人百足
總之沙免之份份 沖薩之決路
之進滯通仍仕雜有年收之
新吏商年四月春府之 決之
此節連或近年之 船之東海道

通仍商日人足百人總馬百足
賃預之總之山渡沙中沙中
年預以之現總之之山等減方
下有之於又之仕之之進之
下市上之此及年何山之

正月廿日
浦島
樋口右内

右料身相小等物上色岩城

庚寅正月廿五日

當年田代且松浦松之妻郡田畠拾高
當年一畝之現之拾之高之別増之俵之
沙浦書之田吉居樋口右内沙用番以助
松平周防守御上持参上度次掛合之
新之

肥前之内願分基隸表之妻郡換毛之
覺

一 田畠式子貳拾貳石八斗九升三勺

内田方之子壹拾四石七斗七升七合七勺
同畠方之子壹拾石七斗七升貳合七勺
肥前松浦筑前松之妻郡之内沙浦之妻地
換毛之覺

一 田畠式子六百拾石之斗九合八勺

内田方式子六百石九斗四升八合九勺
同畠方百拾石之斗六升九勺
右松浦郡之内

一 田畠式子六百拾石之外之合八勺

内田方式子之拾七石四斗六升六合式夕

同富方式拾七石四斗七升六合式夕

右北七郡之内

右之去夏秋旱了穀虫付等与損毛法

の上

正月 日分

沖岩

右科儀大寺書出切上之包並濃液 沖岩

野別沖頤地村之 島季折 沖砲六拾挺

沖砲渡方付右之 沖兩判之 禮文式通

沖砲段大目付織田法濃寺住之 富吉居

之代中庭之 沖次法清持参之 及次掛合之 参

作之 沖居之 有

下野國初賀郡之内

沖砲寺挺 玉目之倉家 小尾村 後江戶 式拾里

式拾里

沖砲口挺 玉目之倉家 上 弘波村 後江戶 式拾里

一 溪池九挺 玉目之空分元 言九百武拾壹石 下池波村 溪江戶 武拾六里

一 溪池三挺 玉目之空分元 言百武拾壹石 上流村 溪江戶 武拾六里

一 溪池武挺 玉目之空分元 言百武拾壹石 牧村 溪江戶 武拾六里

同國安藤郡之内

一 溪池拾四挺 玉目之空分元 言百武拾壹石 作束村 溪江戶 武拾六里

一 溪池五挺 玉目之空分元 言百武拾壹石 上多田村 溪江戶 武拾六里

一 溪池三挺 玉目之空分元 言百武拾壹石 和越村 溪江戶 武拾六里

一 溪池五挺 玉目之空分元 言百武拾壹石 戸定五村 溪江戶 武拾六里

一 溪池拾挺 玉目之空分元 言百武拾壹石 上物尾村 溪江戶 武拾六里

一 溪池拾五挺 玉目之空分元 言百武拾壹石 秋山村 溪江戶 武拾六里

合拾之村改砲九挺

但所米場無事... 提回場...

右批者... 當此... 猪... 田畑... 氣... 百姓... 改砲... 九挺... 及難... 就... 書... 面... 通... 王... 達... 改砲... 九挺... 百姓... 領... 四... 季... 去... 為... 打... 中... 以... 若... 右... 改砲... 與... 忽... 事... 仕... 中... 以... 既... 又... 其... 荒... 山... 高... 類... 打... 以... 有... 即... 殺... 生... 採... 改... 砲... 之... 中... 令... 不... 及... 中... 若... 之... 之... 想... 之... 了... 為... 此... 之... 改... 砲... 之... 改... 化... 人... 之... 不... 及... 中... 候... 親... 子... 兄... 弟... 等... 為... 法... 所... 度... 作... 在...

改砲... 領... 之... 外... 以... 人... 之... 信... 中... 候... 曾... 以... 仕... 為... 改... 砲... 中... 付... 以... 右... 之... 趣... 相... 背... 以... 去... 行... 控... 由... 事... 後... 下... 付... 以... 右... 之... 人... 但... 改... 砲... 領... 之... 為... 有... 一... 概... 原... 由... 中... 以... 為... 之... 改... 砲... 之... 領... 之...

文政十三庚寅年正月廿九

中野兩判

織田法渡書度

下野國却負郡之内

御朱事北

子と院願

一 漢砲を扱

玉目三交券

出流村

後拾六里

但御卷場英海軍提調と志事書度

右子と院願緒床多出田畑と荒百姓及
難儀新吏書面之通玉込漢砲を扱百姓
願四季た為打中し若右へ漢砲を扱事
仕事中いれ又と荒の高類打のより如く
教生扱漢砲の志事人令不及中若る人組と

て為由事旨急度中付並此漢砲を扱
比人令不及中候親子兄弟等与いれ漢砲を扱
之外他人口信中候旨与いれ扱る扱者
清子當北回事堅中付右へ親御月並
河原へ由事長了中付旨若る五人組
漢砲を扱旨方より子形原並中いれ由る由氏
家度山と

文政十三庚寅年一月日付御朱事御朱判

織田信濃書

右西通一科紙封封是上包回紙上書中通
借目一表清中押

庚寅二月二日

巡度沖泰府後以并一通山海街道
可成法通駕一後為白由國中東居舟
在中山書山用為大久保加賀守控

山海寺后樋口右内持系山次掛合出

山海寺加賀寺山海寺山海寺山海寺

私儀東春泰府一節法宗諸事

給子通法府非村法西宮通入馬

山海寺通山海寺通山海寺通

以上

月冒山院
三石山院

十月二日

山名

右科紙大書書切上包回紙上書

庚寅二月七日

去年二月田沼將左衛門督為沙田出帆
時分 沙田通事 松村主程殿
拜勤拜儀 江戶 田沼府君
一節 松村府君
沙田令 沙田令 別府君
波知知 松村府君 松村府君
沙田令 沙田令 松村府君
松村府君 又沙田 酒井 松村府君

沙田進 松村府君 松村府君
河合 松村府君 松村府君
松村府君 松村府君 松村府君
沙田 松村府君 松村府君
松村府君 松村府君 松村府君
松村府君 松村府君 松村府君
松村府君 松村府君 松村府君
松村府君 松村府君 松村府君
松村府君 松村府君 松村府君
松村府君 松村府君 松村府君

庚寅二月八日

沙洲札

丁酉臘月廿一日

先年易地聘禮之沖用引纏
 家來共一內沙沙法亦係法領
 仰付又七下屋鋪口為情並以者發
 沙度非將先亡丁七子沙教免
 仰付歸國法以新吏松村至稅子
 中者先祖代之家先相勸年輪
 不拾案之相成法設儀之沖用素
 家政向各可用之者以乃之係先父之志
 正法及事相以之庚辰子中上無礙發

有之非乃沙法其何之沙法若
 法成可事以以上

十月廿九日

沙名

右料紙大書書中切上六包英法紙

先年易地聘禮之沖用引纏
 對馬之家來共一內
 公色沙沙法亦係法領
 仰付

又在下原補口為信並山書後沙度
作得去去丁丑子初而沙服或下以初
悉沙教免也 作沙雅存歸因
仕以就吏胡鮮沙設儀二付白志
重設之者共心得中一之儀也
代之家充相勸山古充之者不其也
雅相湫沙度山今經家筋之者共
左障有之 當時雅石仕對馬志
甚人切心也仕也並山後處松村

至祝中者代之家充相勸胡鮮
相知山家筋之者中平齡不拾歲
相成者作得去去也記申科之儀
其象沙河其後者一通雅有
沙免也 仕付山得去去庚辰年
石仕方之儀中上並山次中仕度山
容易雅石仕也相也並山近年
對馬志之也為弱也也法設替之
其方心方也也也也也也也也也也

之者正法非志亦在安心哉一法哉
昔念之別紙之通事何處出摩の
事象法何以後及子數子之深
事何分直法何得成下以快
正公其願上非以上

清卷月

二月七日

仁位那為

名科紙亦小其也才切上之色岩城

庚寅二月廿六日

去廿四日清目甘令森甚甲部取在
清包收之旨甘た之清由書法
局守辰樋口女内持系美公作紙文成
口落子之之儀之与比解

是迄家督沖禮亦之節

沖前上出作家集之内國若附作

之のを之作之 去年月日此若左

取調中上作次之云之い之重版後

中上作次との心事。甘茶の序係
年比より以味仕作處對馬守
家来 沖目見仕作者在之内
國名附作者に沖産作其後沖産
中上作以之

沖谷内

樋口 右内

二月廿六日

右新紙相小奉書半切上ハ色黒城

庚寅二月廿八日

日野前大納言権介取沖谷向
作處沖間拍付法在君為少守同
沖谷権介口使名之其紙度大之
沖洞書見沖由緒書半切上ハ色
沖用着大之保加賀守権介山苗守居
樋口右内持系之取次掛合其出作紙
沖願之之儀之返去

日野前大納言殿今取奉向之處

二月廿九日
三月十日

對馬守由緒
安吾守同之使者
此後在河之作

二月廿八日

樋口 女内

由緒書

日野恭大納言殿
實勝殿是女
對馬守先祖

義成妻沙所作

二月廿八日

女每通書
若城守書
書之總

庚寅二月廿九日

在十名町
此田守居

寺町自理之清原忠房部より文政十一年
二月村伊太敷成部十番に合ふ取置後
元利合七取置成部山内合ふ取置後
後六取置成部山内合ふ取置後
右取置成部山内合ふ取置後
及取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後

忠房部に及掛合山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後

對馬島家來杉村伊太敷成部十番
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後
取置成部山内合ふ取置後

沙達お成山日家来小海程の助言共
川流掛合ふ元利合ふ六由一由日
合四由お波射談お整の海お成山程
しお山射別お波の河此一通波成云
之

二月廿九日

小名

甲子

庚寅二月廿日

銅虫腹儀云乙酉年下有頼山品痕了銅
百斤身銀式百圓拾五荒洞百斤身式百拾五
沙定虫腹云仲付虫は山南年大板銅程
多虫腹洞儀沙南地は虫洞紙山品多
虫腹の虫又虫進白の虫達先貨真波に
虫の虫虫洞程方より多虫達虫腹所比苗
虫尾より好方虫紙の虫虫虫虫虫虫
虫洞不進白元虫腹言虫虫虫洞程方
虫動定白虫腹増儀虫洞紙虫虫虫

大坂... 向... 大坂... 延... 節...

... 書付... 勘定... 村垣...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

三月十日

書面... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

... 勘定... 延... 節...

或百積目并荒烟 旨趣中 越の上百年 以来並成内定
百斤并代根武百 玄成下の志 沖階交不私次守身
大積目並成なる 沖特恩之 沙下知事 並成事一と
賣渡の積目并 朝鮮より吹根 私共之難者 為方注法 在作時左右
反生身之價相 洞度方より 玄洞越の品 在積万一
先之是之並成 沙改革之 沖達之 在打成 在之 積
賣渡の積目并 此の之の之 南武難法 次中 在之 在之 南時
此の之の之 此の之の之 公納令 在之 在之 對馬島
洞度及及及 奉府 在之 在之 近年 波國

入送物 内中 一 法 人 參 一 徹 拂 底 後
同 地 之 時 勢 在 和 成 其 外 一 不 運 成 淨 矣
亦 在 打 方 賣 割 方 改 下 積 沙 方 有
亦 在 洞 之 始 誌 亦 一 徹 之 淨 矣 言 也
亦 在 貿易 一 損 益 出 入 一 算 交 引 合
亦 在 亦 一 不 得 之 亦 成 若 後 約 定 一
洞 買 結 之 亦 得 亦 一 振 成 亦 一 在 之
每 年 亦 在 亦 之 禮 節 亦 在 亦
亦 階 額 之 亦 論 對 馬 島 亦 之 儀 亦 在 亦

相拍誠有惑不安津中人心難以為行年
此上 津橋懸く 津沙汰是是是
津定也辰是續法非流津 津橋常是
作念對馬島津波儀我知之重く
雖有不可事好是等之趣行分直
津用將成下流子前事願以上

三月

津谷内
仁位郡尾

右科依取事去也切上包岩地

庚寅三月晦日

乙貿易洞拾方行 丙乙方行 丙四月
此之儀去名願書は若返南の時膳名
此南武く 次中は付南去又く 丙四月
丙前限中 乙意を心再願書反調
乙用願也勘定事行 村垣法落も 初を始
滿く 及乙内意の事又甚此口氣六ヶ友
事之願止の先 迎我出来る友 乙内信付
先ッ 丙四月 是再願も 初見合子 乙亥年

此買傳拾万引代武百之拾之費目を
七ヶ年旅上酒積頼書調智村垣松
入書内見並山又之廿六日

御城中ノ口出苗与居人
中來山竹梅口右内
与山弥十郎度出席
内見之山出山書面七ヶ年旅与書載
以之山乃先主意不直山乃又ヶ年与
徳智乃出山旅中

徳智同廿八日同人 御城中ノ口持系

若出山又与乃出山附札書向朝総出用
出山乃清光中青山下野与旅口若出山
出山若与有山乃今日出同所撰法勝
左ノ書面出苗与居仁位那与持系
之用人出野権与面令一上返口上言
中述先ツ山内覽之若上書面直山
連之若出山及旅中述山又奥口持入物
出山出書面直山若出山旅中

從又出心流後相類並過去史也勝子
出掛沙內用少新法免中水野出羽者候
法勝子口系上之用人二十川九次馬
面會右書面字差出心流後流
中込正解

朝鮮國口從對馬者每歲其後
使者音物之口以前より相後流中
相通商家未卯年之拾方引免於相府沙賣渡
五年之口相後流中作又彼國より貿易漸

或百三拾年貴月
松別之決る夜
寅年之東午年之
子年之刻合年之
浪露松之或百目元
也心口松之仕心口流
例二口口口口口口
之候心口口口口口
二口口口

相賣作上先年画作打續約定之
示物入送相津勝子向行支出賣渡之
相即浪子心買請心子而難出來
云乙亥年以來進之沙也賣之候
身類心處其度每津中道直類之通
心付難有仕合身者心然交
去甲申心十月身類心相六方引
代納沙也賣之年限云七年云云
相滿作付是迄之沙振心心從又

貞享元年より午の迄沙地賣
仲村等成下の居田冬其預知に二十四月
迄之儀を雜お整調より引替代銀
お納し居るは達預書より返由悉
其公入の次申付居る云云其子格別
沙地法を以拾万引の地賣文
付付し得た彼國画策考言約定之
返物若滞時得不得已内より
此預之儀を預残五万引中儀を

其初二十四ヶ月より其子家
御特恩より後云々代納年送若
お納し居るは沙地賣不引仲村
當時云々云々是迄二十四ヶ月
沙地賣不引並に拾万引代納
即銀お納し代納より二口納
由悉仕居るは素年限お渡以上
豫其子由悉仕居るは儀勿論
作得た對馬より勝より近年別

雅浪仕信成相与利金一由控
莫大与相成只今一姿言志身代
能相立以与必之与候约及行信成
及片付勝子向改革仕等山中一此子
願分稀代一風換言收納皆身同極
相成雅浪追市以片差由代納二口
相納以子候更之各一然之迎由年
洞買後一 沖隣交片定式一使者
是後方相滞以片与一許一及引金

應云塞之對馬与沖浪儀之儀相拍
由或之極一沖中片度以与表此一
沖儀懸之此為之垂成下由宣來邦
五年納茶洞拾万斤代銀式百之拾
之貴目一之由宣年一より來年一之
又今年候相納以片之 以片成下以
定式由賣後一洞由定由原即銀之
買信以相仕使者一禮節相關以
不至 沖儀祖一素沖浪儀儀相立

重々難有仕合身教右等之經
又々其類以後公卿之極之決也
沙府公將左行分直沙沙法也
仍出之成下以松子弟身類上以以上

御名内

三月晦日

仁位那焉

大科紙相小書書半切上六色岩城

庚寅三月九日

沙勝子向頃年來以己深公之沙法約
岸平一立成山如子之深後難於之能法
以勝子向身去申之○より五年一之方
山法方以深端之公後法之由公仲上之能公
去子○西之一年限深海公付之為意○
速午○西之五年一之方是之○也沙登
城方之沙系諸系武之節一之方也
松門沙有界公及之國公也及公同

作處之通年之辰と云は、
此處書之通年之辰と云は、
水野出羽守殿、
新十郎、
持入、
下中、
退去

私勝口向頃年來別と云は、
出格、
退去

予、
又、
人数二十五人、
お蔵、
城、
お者、
之通、
下、

下、
之通、
下、

三月音

御名

右科儀大書書出也。皇儀儀士書御名。

庚寅三月十九日

朝鮮國人多拂底。月去丁丑年
以預儀。御名勤獻上。考。不習也。
仰止。皇也。御名。不時。獻上。一。及。

此同。台。此。仰。上。皇。去。年。以。來。進。
涉。達。一。亦。或。有。一。此。等。百。目。如。達。以。月。
左。一。法。同。書。此。用。表。水。野。出。羽。野。口。
此。苗。也。右。極。口。右。內。持。系。以。及。次。掛。合。
若。出。山。也。又。此。成。以。為。子。後。是。一。及。及。
以。返。音。多。一。儀。音。返。去。

朝鮮人參進。年拂底。對完。般。

三月廿一日

何。通。一。者。其。預。名。勤。獻。上。之。人。參。涉。者。免。

秋。上。山。此。仰。止。也。取。入。次。中。不。時。獻。上。

可其伺自茲始達並作牙反者方
折角為如卷之稠遠結牙此節
人參百目不時獻上仕度及以
其伺之作以上

因三月

冲名

右科儀大書書切生色英法儀

庚寅四月朔日

之取冲系府成及日冲勸之掛
作委今日より冲是袋冲用成儀
又相成作付左之冲伺書冲用書
周防守極口留守居極口右内持系
以取次掛合若公作處口落口成作
之儀之返出

私儀痛而冲所非付當長中於
殿中是袋相用中度系極口外候

香何之狀以之

四月朔日

冲名

古料身大寺書出切上包英流紙寺書也

冲名

庚寅四月一日

去月先有法勤定寺以村垣法臨寺
冲城中河口法南寺右山岸寺右山岸寺
公貿易洞拾万斤之内万斤志文改七

申年純年寺寺羽之酉年寺寺
去世年寺寺今寺寺名代法武拾
四ヶ月延寺寺酒以花寺寺
万斤寺寺又改八酉年純年寺寺
羽之成年寺寺寅年寺寺
寺寺代法武拾四ヶ月延寺寺
以換寺寺寺寺寅年寺寺
納茶拾万斤代寺寺紙納花
仕度順寺寺寺寺寺寺

寅年三月月迄。お成居公洞寄り
之方。之方物積。之方。之方。之方。
沙島。之方。以。日。清城中。之方。之方。
清田。之方。右。極。口。右。内。沙。島。書。持。泰。
洞。掛。山。物。之。内。山。才。次。新。夜。向。倉。
之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。
寅年。之方。月。迄。お。成。居。公。洞。代。納。
之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。
重。与。年。紙。亦。お。成。居。公。洞。代。納。
之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。

書。向。之方。人。右。才。之方。之方。之方。之方。
才。向。お。成。居。公。洞。代。納。之方。之方。之方。之方。
之方。月。迄。今日。清城中。之方。之方。之方。之方。
持。泰。才。次。新。夜。向。倉。之方。之方。之方。之方。
之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。

朝鮮。因。日。年。之方。之方。之方。之方。
之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。
德。年。之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。
去。世。年。之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。之方。

右洞買得清代法武拾壹年月延
其納以法武拾壹年月延
又改八百年德子李年於洞交
尚寅年一乞六十年一乃
右洞買得清代法武拾壹年月延
相納以法武拾壹年月延
五年納茶括下代法武百三拾
在費同之分六十年紙納以
仕度順年於法武成年一

尚寅年一乞月延
其納以法武拾壹年月延
又改八百年德子李年於洞交
尚寅年一乞六十年一乃
右洞買得清代法武拾壹年月延
相納以法武拾壹年月延
五年納茶括下代法武百三拾
在費同之分六十年紙納以
仕度順年於法武成年一

一 胃

津角
植口右内

右料液相不... 書... 上... 色... 云... 據

庚寅四月廿日

一 此... 法... 用... 乾... 出... 雲... 鳥... 根... 山... 向... 穿... 右... 方... 心... 切... 紙... 胡... 龍... 人... 參... 多... 一... 紙... 中... 法... 後... 有... 一... 山... 角

明... 考... 方... 寫... 時

津... 珠... 中... 之... 口... 白... 其... 筋... 沒... 人... 中... 一... 在... 出

以... 換... 中... 一... 身... 山... 助... 多... 之... 潤... 沒... 者... 小... 次... 等... 處

山... 向... 右... 下... 沒... 抄... 附

津... 城... 中... 一... 之... 口... 白... 其... 筋... 沒... 人... 中... 一... 在... 出

總... 氏... 大... 鴻... 九... 新... 在... 右... 法... 助... 多... 之... 二... 浦

勸... 言... 新... 友... 右... 席... 有... 一... 等... 一... 山... 角

朝... 鮮... 人... 參... 多... 一... 山... 角

外... 法... 奧... 向... 山... 角

先日秋ノ彗撰下又去大坂表
錦赤土ノ彗撰下ノ取方ニ彗撰
ノ彗撰又ハヨリ上ニモ彗撰ノ彗撰
献上彗撰書目計ニモ彗撰ノ對馬島
彗撰用ニ川彗撰外ニ彗撰彗撰一切
彗撰中ニ大坂彗撰ノ彗撰ノ彗撰上
仕彗撰ノ彗撰彗撰地ニ彗撰彗撰中ノ彗撰
今程大坂彗撰彗撰全ノ彗撰彗撰ノ彗撰
彗撰上ノ彗撰大彗撰用彗撰彗撰ノ彗撰

以テ彗撰入用ニ彗撰ノ彗撰ノ彗撰
彗撰ノ彗撰ノ彗撰入用ニ彗撰ノ彗撰
彗撰ノ彗撰ノ彗撰相彗撰ノ彗撰
其ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰
彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰
彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰
彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰
彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰
彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰
彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰ノ彗撰

可仕候上途無年月今日流助之
海津茂之東之書付

沖城申之口口持来山助之浦
助之新夜也唐書回之空

朝鮮人多先自就上仕以海法
外沖奥向之用之成法座山石

然之殘撰下又之大海名行志也
可之山式廿之平房之有之山而後

清兵又之山海山房有之山山山

多之山事以法達山付定有秋上法殘終署月奈

對島之兼用也海山之大坂表之候也山付

候考一切之山在候法書中上以法書有

多候之山書山書上之山成山山成山山

也之山山山山山山山山山山山山

山山山山山山

山山

海津茂之書

庚寅五月廿日

人考之山山山山山山山山山山山山

以勘定町並を以て対し其書物を流添勘定
海津長多末等が申す願者あり
沖城申すに持来り勘定三浦勘定所及
西倉並に津並に其書物返去

寛

一人考四枚

代帳を賣四冊九枚也

金貳拾四匁二分銀也

右通津屋以上

津屋

海津長三書

四月二日

庚寅九月十日

朝鮮沙米漕宝漕九師園掛七月間漕船

妙見瀬戸にあり難航積荷の漕船

舟成非徒し東支に付是迄破船に當り

先例有りし海老島母船難航一ト通

沙船と通例不考及海高村等難航

沙船等品長有りし津屋及西倉並に

津屋之船成り及海高村等

以上書朝鮮用等沙老中書

下野古坂正南之居樋口志内村系之用人
河津勝茂向倉家為正家之弟為正家
正解

朝鮮國正家渡重作子船一艘為
歸國七月初日彼地出帆對列國船
渡者曰胃廻府三條波湖掛居作處
俄風波注亦波浦津難系及浦船
舛見瀬亦中亦吹射船底波破損
讀為悲海失湖津亦波中亦乞

人今別乘之少在以此後涉書而去
以上

九月十日 津島

朝鮮國王世子夜育死去有
四子年以前
製制
同列中

仁 倭國山移史文比二五年高麗海死乞
之長弟磨之使者乞其後其後及
沙石山振合之使乞其後及
之統之名之使回列中其來及使乞
大日如之振乞沙石山之統其見非乞
乞之使書乞其統其用乞其乞
其乞乞其乞其乞其乞其乞其乞
其乞其用乞其乞其乞其乞其乞
其乞其乞其乞其乞其乞其乞其乞

朝鮮國世子高宗月死乞其使乞
厚厚其乞其乞其乞其乞其乞
使者乞其後乞其乞其乞其乞
以上

九月十日

沙石

沙石山振合之使乞其後及
沙石山振合之使乞其後及
沙石山振合之使乞其後及
沙石山振合之使乞其後及
沙石山振合之使乞其後及

子代の喜柳、其處に於て其法を
厚歸

一切支丹宗門後、其懈を以て相改
中山元年、其法を以て其法を以て其
法相守私願中、并為其子代に成る
地不在、其法を以て其法を以て其
下、其法を以て其法を以て其法
之法を以て其法

一願中并為其子代に成る地不在、
其法相守私願中、并為其子代に成る
其法相守私願中、并為其子代に成る

以上

文政十二年庚寅年九月十日

其法相守私願中

其法相守私願中

其法相守私願中

此貸附金又子...
信法夜中...
為及調...
信貸附金...
貸者...
貸液...
以...
之...
出...
貸液...
洞倉...
元...

沙... 胡... 沖...
不... 入... 用...
幸... 國... 海...
下... 向... 亦...
肥... 飛... 順...
普... 語... 不...
延... 局... 尚...
前... 宿... 宿...
租... 兼... 知...
何... 年... 決...
金... 中... 也...

內... 及... 全... 有...
決... 中... 山...
家... 充... 興...
貸... 液... 以...
中... 液... 亦...
一... 也... 也...

相... 借... 止...
野... 列... 沙...
第... 一... 年...
元... 利... 在...
下... 中... 以...
以... 在... 方...
上... 以... 上...

十月

九月

仁... 德... 那... 黨...

中... 書... 月...

庚寅十月十日

朝鮮以銀沙及地方官志丙戌乙破船
車情願之銀度沙漫錄金日云子支
沙清請之度辰改來卯乙沙江更金日
返納之年册之是為時之清勝乙向納
如成此等之深令大之行文之之此銀沙
乙乙溢淨之極子定南時之沙江之極
近之十來居山逐後之之極時之價銅
之實入之連夜如河安身而感之沙江公海

如銀沙虛實不分則廢其山江之極子以極
難於極收是之其此節之江清節以願之
之度度節之及沙內之意見公之極後金連
之由極廢此江極清願令之極之
就名之也乙之極沙賣上之極之極
之願之極作廢沙江清極之極之極
非百右極之極之極之極之極之極
前清之極之極書及詞村垣極之極之極
之極之極之極之極之極之極之極

佛山之新山者昔修補之於其間又於
新山掘園居者不遠遊之入送之改
如得吳山之中山素是之拾年之
古賣上之百之拾貫目約如居者均
仕見之得去年百拾貫目歸家納言
於成官處請物言不足仕之度
汝等之破損之能治之入有之其上
新山掘園之付入料大造之有之
請員商人云より後入用之法非事

如等之修之支節之貿易約定及入月
五斗入白米之入海本綿之方是也
價相之方之支時貸渡也之能治補
取同之雜用也廣治先也海年或百貫
位後急度入送之改後彼園商人云

中少の節より

即通信之付不時之入用箱也之助合
度之有之既相八拾方之別後也
先例也之節之可重之治也

異域之至寶也及今方付其進
步達之者自後日必先亦進下
見込有之將志守意解防難中
收兼諾也此後其勢之公貿易
約定及入之亦貨液并是之仕入
設並振也此節新之烟收先送
對馬之勝子向練合破之文
公私之要用於外之要通及報
之之也其不利也其財之也

和漢之通亦勝子向之空位之相成也其
仕在之元來亦賣液之價洞之
以銀百貫目取也儀之貿易不利
算商之仕在英國之至寶及入之
公也 亦國益也其後進
亦達之者自後日必先亦進下
不拍折角加數反也其後仕在
作將在勝子向之志也其後國
亦錄師不意也其後心也

中道信反不中意此中事涉海北亦不
化家以心願分表出銀有之
法前借表表為在非或傳兼法以月行率
少別極之為意

中嫌惡之成下右同法
金壹万云子表前借也
年願先作之反出
後之銀代之
返納法及若万之一返納不足之部也

年之洋受令壹万貳千貳百貳拾
可法然時之反
中少通速改兼諾也此先以海增教

反入
乞外之志丙戌年同成子年銀度在後此
令之內云子表宛也度之貸附亦不

作將是法節也願以事情表前條之通
不私認合表涉度以分直

中同通表下通項之通也

海軍預備以上

十月十日

中着内
仁法那馬

右斜紙系草書也切上之包並濃紙上書也
認

庚寅十月九日

去元上白少頗分野別在後後於枯山村
出火之良山實實波之口事打 快砲

持之百性梅之態乃致燒失以版抄聖
水有良之書回快砲以及本自月減回
法法与初也山角守名持之山其大掛合
在也

鄂州安羅劫

枯山村百性

快砲一挺 持之梅之態

首三月

去元對馬島以白商死野別安羅劫

於發給内拾壹ヶ村之去交二下外年
四季打秩砲六拾挺貸渡年角
是挺内月十六日右社山村出大部
燒失仕公儀ノ燒筒及揚中ノ
此所事申上帳上

御旨

青森

仁佐郡新井

右科紙おふともま切上包芝味

庚寅十二月十六日

浪座方 沙優比令之日申由云丙戌の

沙類ノ品依年西来ノ利是

乙未年沙資居六年日皆海区初云

作分重則来卯年云 沙相受令

去方或申云月より沙川落ノ来期

是云ノ形云云今乙未年沙資居云作分

以下ハ依申頼度及評議九之書面

取調用頼申勘定其ノ村

皇朝之君仁位邪高持泰以用之彼急之臣
而令其親及信使預書沙内覽之其上
其心至重之愛與日共入也其書由
其心身至也預其意旨云作其後事少
以牙稍又沙内居於中入重退去

去月晦日沙内坑

書高麗所存

附令云子西漢

丙午年三月貨

朝鮮國次浪取出方之儀身彼國

請負商人共了米木銅器等之

事情其以浪所方沙金壹万五千兩

送前借之儀也預其意旨云別取之訣云

居之也其作此云

お預作此云所成

相中作此水野

出所也殿に伺ひ

方令云子西來

卯年三月

川漢云子年三月

貨居にる云子所

の云也心持道

右返酒云也成云

為之也市金壹万兩沙金壹萬云

作付

公私取兩國之信義成之誠以雅有

仕合も好の然向も猶又決上出浪出方

相進は折角掛合も之の道徳也所

然也又兼之也所

市河の通商時逼迫之勝も向に外云

今中も令之之縁合相成兼也

兼也其是也得た是角種は是

是より推察
 〇〇五年分利令
 英六十年目
 申〇五年分令
 一夜返酒令
 年〇〇〇令
 去方武子
 〇〇〇門返酒
 おと作換
 是より推察
 去方武子
 〇〇〇門返酒
 おと作換

吹浪取出後
 〇〇〇〇
 昨取〇〇〇

誠高感強云々
 去丙戌年十月
 沙優比令
 五年沙資居
 仰分並則
 去方武子
 〇〇〇〇
 〇元〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇

〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇

〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇

亦通信夜方雅有仕合可也願也
有也何分道

亦間通亦下重願之通也
亦分亦下花偏也願上亦以上

亦者

仁位邪為

土青

右新紙中亦書亦上亦色亦濃紙上亦書

亦者何何來也認

庚寅十二月十八日

公貿易易銅拾萬斤亦自亦方行去丙戌也

亦願亦亦依代納武拾四十月亦延賣也

亦甘亦亦亦當年也亦年限亦海亦亦也

亦亦願亦亦亦亦亦書函亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦今日朝鮮亦用亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

也。其後復言。中。入。公。與。日。名。持。入。
物。古。有。其。出。事。物。區。安。事。物。更。非。便。也。
中。受。其。分。猶。又。心。派。海。中。一。通。去。更。
出。務。子。掛。尚。用。款。沙。充。中。水。野。
出。羽。子。似。占。務。子。最。同。人。為。之。用。人。更。派。
不。能。清。而。今。大。書。而。字。如。心。派。海。中。
中。込。名。師。

朝鮮國。使。對。馬。每。歲。派。使。者。
音。物。自。朔。十。五。日。元。年。大。坂。御。座。

國。方。中。嚴。達。一。事。名。後。有。一。書。掛。合。
於。其。辰。名。免。角。子。前。一。利。益。之。元。之。
柳。汝。長。難。題。成。箱。多。一。之。風。俗。之。
四。海。之。際。如。見。中。一。而。感。一。之。以。文。之。有。
前。條。上。上。作。通。來。拜。年。一。拾。力。行。之。言。
全。即。銀。之。以。買。入。且。其。便。一。汝。長。元。之。以。稅。
中。一。之。一。事。定。其。便。之。遠。而。去。其。海。邊。一。也。
次。洞。百。斤。一。身。代。銀。或。百。拾。月。亮。洞。百。斤。一。身。
同。式。百。五。拾。月。一。身。通。場。之。買。請。一。身。一。也。

未商年... 納... 其... 歸... 海... 其... 歸... 海... 其... 歸... 海...

辛卯二月...

書... 俄... 二十... 百... 以... 百... 亦... 以... 亦... 亦...

未... 納... 其... 歸... 海... 其... 歸... 海... 其... 歸... 海...

天保十一年
天保十二年
天保十三年
天保十四年
天保十五年
天保十六年
天保十七年
天保十八年
天保十九年
天保二十年

其額非如額通云々 乃月已以此事
而年より即海之貿易請益其強者行海
去丙戌年より當寅年と云々 乃越賣
年限お海島る未卯年より是又即海
買入云々 乃之貿易及入出物内中
人多拂度同此云々 乃勢あり云々 乃
乃海以前之難引收損分云々 乃作甘
乃收儀之取銷筋是云々 乃此借云々
お補是是是又先年以來之貿易及

其系種号以湯海失為任該以銀百其自
乃損失云々 乃非常云々 乃及又難法海増
乃与商感云々 乃各云々 乃云々 乃年云々
事情 乃分明云々 乃云々

乃仁儀云々 乃云々 乃高寅年云々 乃云々
乃乃乃云々 乃先云々 乃通未卯年云々 乃云々

乃云々 乃乃乃云々 乃乃乃云々
乃乃乃云々 乃乃乃云々 乃乃乃云々
乃乃乃云々 乃乃乃云々 乃乃乃云々
乃乃乃云々 乃乃乃云々 乃乃乃云々

掛合方原中一子可雖有法合可幸整以施
兼之於每歲沙黃液亦以水牛角液
近年結液來法一彼國別愛用之亦
一向如液將中一秋大者進之至
又之難滋多中一之整中一第一發
洞延滯為液作的對馬之難滋節
亦以如重山意勿論
河分宜 河國將領通書

作竹玄液下作液作之者至願以上

河名內

去月十八日 樋口右內

右科液相小書書如土色黃液液土書書河名內

總

庚寅十二月廿四日

野川川沙書法計去酉年一沙達
有以通沙之由比之白吉社願合言及
令友寅年一之酒分去九月沙勘定

村垣淡路より海へ通るに水脈清浅官
川流平直及に水が及合お細毛其脈
下より地定水口お扇山脈より通達
お成居の村各細毛濃波帳は之の面より
名元より下より地定水口お扇山脈方動
村在る米村系也

江島代官川流平直及に水脈清浅官
お流る出江受板見ると江脈返
お濃波帳借海へ敷く下不敷二又お扇山脈
上包を書色より通るの村系也

野分沙の南境之内通る清浅官

相納の沙田帳

一 覽

沛東平地
子子溪順

一 高五拾石

下野園地有石

寺ヶ村

沛東平地
寺門寺順

一 高拾石三斗

田園寺後地

寺ヶ村

寺社順高拾石三斗

此高以浪拾石三斗

此
浪式拾石三斗
寺ヶ村
寺社順高拾石三斗

此合志分限之三重

後發也

古志云七年下野園稻有門大石門
行鼻門渡良瀨門通沙普法門因
沙寺南地及寺社願之分高收令書而通
取之沙法官門法寺處及和納中以此

宗對馬也

天保元寅年正月

植石也

一 沙勘定也

庚寅十二月廿五

野別沙地百餘石沙盛後方並非
後地後每年年末山取揚正月
又之山盛渡之候 沙為元法友利
沙能又之山法局之沙上非沙地
為部右法地之殘材及人願之
別其候後地之沙大員有法地
右之山重書占高寺居之代植石富
持各石及次掛合也

但獲物負救之役也及也事也也救也
是又也通也事也也

松者沙也當地下野國部賀那古獲物
村之并同國部賀那古之役也
初合拾式之村也願也玉也通也
九換也事也也事也也事也也
并正也并右該地之獲物也
沙也事也也事也也

上月日界

沙也

右科紙大字書也如上也也也也也也也

右也形也通也沙也事也也事也也
是也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也

對馬也沙也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

多疑然山村出火之疑其比燒向
取揚要候去月廿九日法由法要
通付此後及中九疑之揚候對馬
別候之趣及也候法之程又右
中六以上 津着

上月廿七

仁法歌集

實

一 猪 九七

一 麻 武拾七

右 通 本 局 并 法 局 中 上 六 七

津着

上月廿七

通口富集

右 通 一 科 法 本 局 上 色 若 錄
上 書 局 中 上 六 七

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

